

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう
 明治時代に入り日本は世界の仲間に入る新しい時代を迎え、明治三年（一八七〇年）一月二十七日「日の丸」の旗は日本の国旗として定められ、世界の国々からも認められるようになりました。

奈加美神社
 第4号
 平成20年秋号
 10月15日発行
 泉佐野市中庄834
 電話462-7080

奈加美神社百周年記念事業
 奈加美神社 宮司 北岡忠澄

秋の豊かな収穫に感謝を捧げ、村人が共に喜び共に祝う秋祭りが本年も十月十一日・十二日両日に亘り晴れやかに賑やかに執り行われました。

「奈加美神社改称百周年記念事業」第一期工事の新社務所の建築に際しましては、この賑やかな地車の宮入が少しでも威勢よく境内を廻れるように、旧社務所より後退して境内をなるべく広く確保するように心掛けました。今までは雨降りの年は地面がぬかるんでにつきもさつちもという状態でしたが、来年の秋祭りまでには地盤についても何らかの対策を考えたいと思っております。



さて、氏子皆様にはこの度の「奈加美神社改称百周年記念事業」に際しまして、絶大なるご協力、ご奉賛を賜り心から感謝申し上げます。現在のご奉賛状況につきましてはお陰様を以ちまして、各町とも目標額に達するご奉賛を賜っております。氏子皆様方の地域に対してのお気持ち、

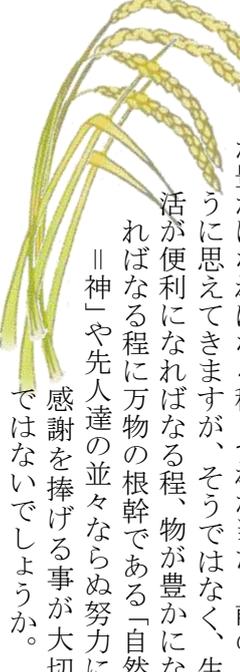
また氏神であります奈加美神社の伝統・文化を護持し、次の世代に引き継いで行こうというお気持ちに感服致しますとともに、神社の管理運営にあたる宮司としての重責を改めて感じ、身の引き締まる思いを致しました。

早速にご奉賛頂きました皆様方には、本来ならば早々に御礼のご挨拶を申し上げるべきところでございますが、来年の平成二十一年を以ちまして奈加美神社改称百周年を迎える事となり、来年九月頃に百周年記念大祭を執行する予定でございますので、この記念大祭を節目として、事業報告並びに記念品と共に御礼申し上げる所存でございます。

ご奉賛の期間につきましても来年九月まで受け致しておりますので、これからご協力を賜ります皆様には、各町の奉賛会役員か奈加美神社まで宜しくお願いを申し上げます。

稔るほど頭を垂れる稲穂かな

昨年から今年に掛けて、「食」に関する信じられないような事件が次々に発覚しております。今になって発覚しているだけで、長年に亘り繰り返し行われていたのでしょうか。事件が起こる度に、いったい何を信用すればいいのか判らなくなってしまう。



今回は日本人の主食である「米」までもが問題になり、しかも政府を通じて輸入した米が高濃度の農薬を含んだ汚染米であり、企業により偽装されて流通し、病院・学校の給食、さまざまな加工品を通じて人々の体内に蓄積されるという大変な事件が起こっています。

神社では農耕儀礼を中心とする自然信仰と、祖先を尊ぶ祖霊信仰を基に連綿と神祀りが受継がれており、年中の神事は稲作が中心であり、「米」そのものに神という観念を感じ神聖視されております。しかしながら最近の事件を見てみると、自然なり食物に対する畏敬の念が忘れさられているようです。

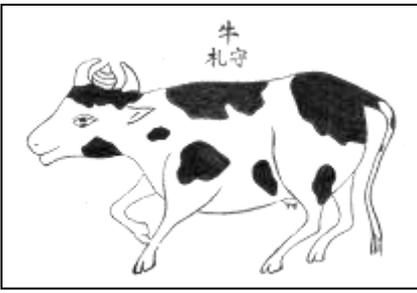
古代より人々は時に雨のない日照り、台風や洪水のように荒ぶる風や水、地震に畏れをなし、時に燦々と耀く太陽の光、爽やかな風、豊かな水、豊かな大地に感謝を捧げ、常に畏れと敬いの心を以って「自然⇨神」と共に生活を営んでまいりました。

現在では何ごとも機械化、デジタル化され、様々な分野で日に月に技術の革新が進められ、有り難い事ですが更に便利な生活が私たちを待ち受けています。生活が便利になればなる程、物が豊かになればなる程、それが当たり前のように思えてきますが、そうではなく、生活が便利になればなる程、物が豊かになればなる程に万物の根幹である「自然⇨神」や先人達の並々ならぬ努力に感謝を捧げる事が大切ではないでしょうか。

モウすぐお正月？

少し気が早いですが、秋祭りも終え十一月に入るとすぐに十二月。あつという間にお正月がやってきます。来年は己丑（つちのとうし）の年です。

旧社務所の解体前に整理をしていたところ、古ぼた牛の版が出てきました。早速、印肉をつけて押してみると、農耕牛と乳牛らしき牛札の絵が現れました。総代さんや農家の方に尋ねてみると、「懐かしいなあ、むかし牛小屋に貼ってたなあ」との声が返って来ました。現在は農機



具がかなり発達しておりますが、ひと昔前は牛や馬の力を借りて人力での農作業だったようです。時が経つにつれ農作業も機械化が進み、牛神さんの信仰もいつの間にか忘れられてしまいがちですが、牛神さんは時を超えて、今でも奈加美神社のご本殿に祀られています。

ご承知のとおり奈加美神社は百年前の明治四十二年に中庄・上瓦屋・湊の頭仮名文字を綴り合わせて奈加美神社と称されるようになりましたが、その時に各村に祀られている多くの神様が合祀されました。その中でも牛神社の数は一番多く、中庄・佐野川・山出・湊とそれぞれの

地域に祀られておりましたので、如何に牛神さんが重要視されていたかが理解できます。因みに湊の牛神社は当時何らかの理由で合祀されず、昭和二十四年に延命地藏菩薩のお堂が建立された時にお社も改められたと伺っています。

また、聞くところによると昔は奈加美神社の境内では牛の品評会も行われていたそうで、境内のあちらこちらに牛が繋がれ、何かしらのんびりとした情景が思い浮かんできます。

せっかくのタイミングで牛の版が出てきたので、その版を絵馬におこし、来る平成二十一年の丑年の新年より百枚限定で頒布致しますのでお早めにお求め下さい。

七五三と菊花奉納展のご案内

この季節、晴着を着た可愛らしい子供たちが七五三のお祝いで奈加美神社にお参りになられます。着物が歩いてるように見えるなあどけない三歳児、少しお兄さんの凛々しい五歳児、もうお姉さんのしっかりした七歳児、皆それぞれに玉串（榊）を手に上手にお参りをしています。

元氣いっぱいの子供たちの晴着姿には日本の国の国華・菊がびつたりです。今年も菊花奉納展の季節がやってまいりました。中庄の山東克巳さんによる菊花の奉納も三年目を迎える年々彩りを増し、大菊三本仕立て段飾りを始め、だるま作り、福助作りに加えて、本年は山東さんご自身で十数年ぶりに懸崖仕立てを造って下さいました。どの仕立てにいたしましたも日々の作業は大変なものです。境内では綺麗に咲いている一番いい時だけを見させて頂くので恐縮ですが、やはり楽しみ



今後の行事予定

- 十月下旬～十一月中旬 菊花奉納展
- 十一月中 七五三参り受付
- 十二月上旬 新社務所竣工祭
- 正月三ヶ日 新年祈禱お祓い受付
- 一月九日～十一日 戎さん（福笹、吉兆授与）
- 一月～二月 厄除け厄祓い受付

です。皆様も是非ご鑑賞下さい。七五三のお参りにお越しの皆様もお子様の写真撮影にもってこいです。どうぞお待ち申し上げております。

神道豆知識～其の四～

神社に納める御包みの表書きは？

お宮参りをはじめ各種御祈願をお受けになれる場合に、御包みはどのような袋に何と書けばいいですか？とよく聞かれますが、紅白の熨斗袋に、御祈願の場合は「祈祷料」または「玉串料」「初穂料」等、お供えの場合は「初穂料」「神饌料」等とお答えしております。泉州地方では「御膳料」と書かれる事も多いようです。

また、物品のお供えの場合は「奉献」「奉納」とも書かれますし、神式での葬儀のお供えの場合は「御霊前」「玉串料」といった表書きが用いられます。

水引の結び目も、何度あっても縁起の良い「蝶結び」、一度きりの「結びきり」等、用途によって異なります。